


所 属	現代社会学部 現代社会学科 (ビジネス文化専攻)		
主な担当科目	貿易論、統計学、日本経済論		
	氏 名	山田 聡亮	
	フリガナ	ヤマダ トシアキ	
	職 位	講師	
	学 位 等	博士(経済学)	
研究内容・社会業績等			
<p>ミクロ経済学と計量経済学の手法を用いた研究。これまで自然災害義援金の総額がどのように決まるのかやどのような災害で義援金の募集が行われるのかということについて分析してきた。また、熊本市役所で、コロナ禍の市民の声をテキストマイニングの手法でまとめた。</p>			
論文・書籍・資格等			
<p>博士論文「自然災害義援金の総額の決定要因に関する計量分析」単著2015年</p> <p>論文 「地震災害救済制度について」単著2009年pp.77~95 「自然災害義援金の寄金総額に係る影響要因」単著2018年『熊本都市政策vol.5』pp.57~75 「災害時義援金募集の実施に係る被害規模並びに報道量の影響」単著『熊本都市政策vol.6』pp.76~86 その他</p>			
学生へのメッセージ			
<p>本校に赴任する前は、熊本市役所の研究所で研究員をしてました。明治以降の熊本市の都市としての発展を追うにつれ、見えなかったものが見えるようになり、熊本市の魅力が実感できるようになりました。萩市は、明治維新の偉人達を輩出した町で歴史的に興味深いところでもあります。このことは、地元の人たちにとっては当たり前のことですが、他所から来た人にとっては、改めて新鮮な魅力だと思います。萩の魅力をどのように伝えるか、普段から意識していれば、あらゆることについて魅力や良いところを引き出せる力が養われるのではないかと思います。</p>			
出前講義等			
<p>現代のミクロ経済学の分析範囲 現代のミクロ経済学は、需要・供給の分析にとどまらず、経済主体間の競争状態を記述するゲーム理論や、財・サービスの品質が明確でない場合を考察する「情報の経済学」など、分析範囲を大きく広げています。さらに、実験心理学の手法を取り入れた「行動経済学」など、理論の検証方法も発達しています。このような現在の経済学の分析の広さを解説します。</p>			